

令和5年度大谷場中学校だより



おおやば

第7号

令和5年10月31日(火)発行

学校教育目標

「より高く、より広く、より深く、より強く」

さいたま市立大谷場中学校

〒336-0016 さいたま市南区大谷場2-13-54

TEL : 048-882-9962 FAX : 048-811-1336

WEB : <https://oyaba-j@saitama-city.ed.jp/>

MAIL : oyaba-j@saitama-city.ed.jp

学校WEBページ
QRコード



実りの秋

校長 やさか かずのり
八坂 和典

朝晩の気温も低くなり、本格的な秋の訪れがやってきました。秋はスポーツの秋、芸術の秋、食欲の秋など他の季節にはないたくさん言葉があります。それぞれの秋の由来を調べてみると、「スポーツの秋」は、1964年に開催された東京オリンピックがきっかけです。開会式が行われた10月10日が体育の日（現在はスポーツの日）に制定され、スポーツに親しもうとする気風が高まったためです。「芸術の秋」は、この時期が暑くもなく寒くもなく過ごしやすい気候で、創作活動に集中しやすく、展覧会や音楽会が多く開かれる時期でもあるので「芸術の秋」と言われるようになりました。「食欲の秋」は、「日照時間が短くなると、心身の安定につながる脳内の「セロトニン」の分泌が減り、それを補うためにたくさん食べたくなる。」「気温が下がると基礎代謝が上がるため、寒い冬に備えてカロリーを蓄えておこうとする。」などと、様々な説がありますが、主食のお米をはじめシンプルに美味しいものがたくさん旬を迎えるからというほうが実感はわきます。

さて、秋は学校行事が一番多い時期でもあります。本校でもスポーツに芸術に、そして地域ボランティア活動にと生徒が、意欲的に頑張ってくれました。さいたま市新人体育大会では男子ソフトテニス部が団体に県大会出場を決めたほか、個人では剣道部、男女ソフトテニス部、陸上部と県大会に駒を進めました。残念ながら多くの部が負けてしまい、悔しい思いをしましたが、最後まであきらめず、ワンチームになって、全力でプレーする姿、選手を応援・サポートする姿には感動しました。また、負けた悔しさを糧に日々、頑張っている姿は頼もしさを感じます。来年度行われる学校総合体育大会が本番です。これからもチームで一丸となり、頑張ってもらいたいと思っています。10月7日(土)には南区ふれあいフェアが浦和競馬場で行われ、本校から44名の生徒(早朝31名、日中13名)がボランティアに参加したほか、吹奏楽部がステージで演奏をしてくれました。早朝ボランティアでは、6時30分という早い時間での作業にもかかわらず、一生懸命に会場設営等に取り組み、日中ボランティアでは案内やステージ補助を行ってくれました。中には仕事ではありませんが率先してごみ拾いをしている生徒もおり、ボランティア精神の高さを感じる生徒もいました。吹奏楽部も楽しく、立派な演奏を多くの方に披露してくれました。ふれあいフェアの担当者の方からも生徒の頑張りについてお褒めの言葉をいただきました。

合唱祭では、体育祭に引き続き、3年生が模範となり立派な歌声を披露してくれました。どの学年・学級の合唱も一人ひとりが奏でた音が、ひとつにまとまり美しいハーモニーを創り出し、会場全体が一体感のある素晴らしい合唱となっていました。目には「見えない」けれども、生徒一人一人の思いが伝わる素晴らしい合唱コンクールでした。大変感動しました。

駅伝では3年生は9月から、1、2年生は10月から練習に取り組んできました。駅伝は、日本発祥のスポーツです。「走ることは自分との闘いである」とはよく言われる言葉ですが、駅伝は、自分のためではなくチームのために走ります。「絶対に勝ちたい」「皆のために最高の走りをする」「タスキを必ずつなげる」という気持ちがチーム内で一つにまとまること、固い団結を生み、各走者の力を最大限に引き出し、精神的成長に導くのです。チームのために仲間と一つになるという駅伝の精神が、日本人に合っているとされる所以です。駅伝の練習を見守っていて、チームのために励まし合いながらひたすら練習に励む子どもたちの姿に、美しさや清々しさを感じました。男女ともに自分たちの力を出し切り、粘り強く、素晴らしい走りを見せてくれました。

実りの秋は、厳しい冬への備えでもあります。様々な活動を通して子どもたちには、これから待ち受ける予測不可能な社会を乗り越えていく力を着実に身につけています。地域の皆様保護者の皆様、これからも温かい応援と見守りをお願いします。

最後にもう一つ。秋は「読書の秋」ともいわれます。「読書の秋」と言われるようになったのは、中国・唐代の文人である韓愈(かんゆ)が残した詩の中に「燈火(とうか)親しむべし」という一節があり、「秋の夜は涼しさが気持ち良く、あかり(灯光)で読書をするにはもってこい」という意味です。秋の読書週間は10月27日(金)～11月9日(木)です。今年のキャッチフレーズ(標語)は「私のペースでしおりは進む」です。忙しい日々ですが、短い時間でもよいので読書をする習慣を大切にしてほしいと思います。**読書は未知な体験と豊かな知識を身につけ、個人を成長させてくれます。**「燈火(とうか)親しむべし」この秋の夜長、まず一冊の本から始めましょう。

